

石州瓦職人の出稼ぎー(赤瓦)技術の普及 5-②(岡山)

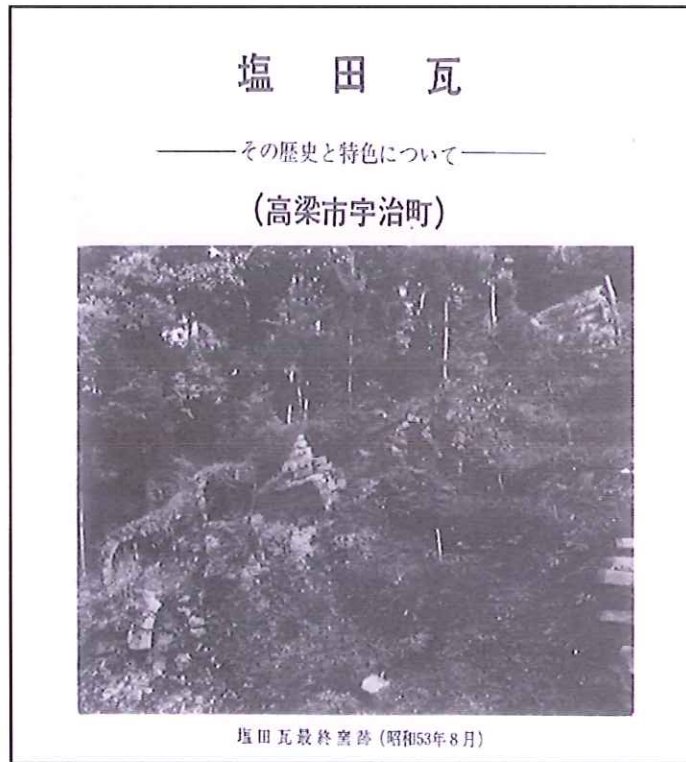
2. 石州瓦と塩田瓦の関係

産地も全国到る処に出来たが殊に生産高の多い地方は愛知、兵庫、福岡、岐阜、島根、埼玉、

現今存せる主なるものは本職場、中職場、新職場の三ヶ所あるのみ、之が年産額は数万円に上り販路は川上、阿哲、上房、吉備、小田、後月の六部に隣り斯業甚盛人を極めつゝあり」

2. 石州瓦と塩田瓦の関係

…宇治の地に伝わってきたのは島根県石見地方に産する赤瓦と称する赤褐色の瓦で、釉掛瓦の代表的なものである。これが「石州瓦」の名で知られているもの…



…石州瓦の名称で呼ばれるもの全部がこの石見地方で製造されて地方に輸送されたのではないと思う。石見地方の瓦職人は各地方に良質な土を求めて歩き、よい土質が発見されるとそこに窯を築き製産に従事したもようである。…

…この宇治・成羽地方に伝来し塩田瓦の名で製造されるようになったのは…「今を去る百余年前にして、石見国より梅造と称する者来たりて粘土を発見し、瓦製造を創めしを元とす。」…その後、佐々木仲太郎は明治36年郷里の島根県那賀郡二宮村(現材の江津市)に引き揚げた…吹屋鉦山の操業の盛んな時代であった。…

塩田瓦ーその歴史と特色についてー
発行：昭和55年2月／著者：高峰秀清氏